

つがる相撲クラブが全国大会で小中ダブルV

「第43回親善少年相撲金沢大会」(6月2日) 小学生の部でつがる相撲クラブ(長谷川恵司君、鳴海匠馬君、小関拓道君、伊藤秀君)が優勝、柏小学校(古坂裕聖君、相馬良亮君、鳴海篤郎君)が準優勝、さらに中学校の部でも同クラブ(石岡弥輝也君、田中界渡君、越後谷知樹君、長谷川譲司君)が優勝を果たすなど全国大会で大活躍しました。また、個人戦でも小関拓道君(柏小6年)が2位、越後谷知樹君(木造中3年)が3位となりました。越後谷清彦監督は「稽古どおりの力を出すことができた」と大会を振り返り、石岡弥輝也君(木造中2年)は「チームワークと応援してくれた人たちのおかげで優勝できた。本当にうれしい」と話していました。



全国大会で大活躍したつがる相撲クラブのメンバー



優勝を報告した瑞穂ミニバスケットボールクラブのメンバー

瑞穂ミニバスケットボールクラブが初優勝

瑞穂ミニバスケットボールクラブ(瑞穂小)が6月8日、9日、黒石市で行われた「第10回記念Koku Cupミニバスケットボール交歓大会」女子の部で優勝し、6月13日、福島市長へ報告に訪れました。Koku Cupは本県初のプロバスケットボールチーム「青森ワッツ」のヘッドコーチを務める棟方公寿さんの名を冠する大会。同クラブは準決勝は1点差、決勝は3点差で勝利し、初優勝を果たしました。

佐藤健一監督は「接戦ばかりだったが試合ごとにチームが成長した」と報告。主将の平山美紅さん(6年)は「つらい時にチームで励まし合って頑張った。優勝できてとてもうれしい」と話していました。

商店街朝市がスタート

木造地区の千代町商店街で6月16日、今年度最初の朝市が開催され、多くの市民らで賑わいました。開会セレモニーでは、福島市長が「朝市が買い物だけでなく、地域コミュニティの交流の場としても賑わい、地元の活性化につながることを願います」とあいさつ。長谷川靖久実行委員長が「がんばろう」三唱し、朝市が開幕しました。朝市では地元の野菜、果物、海産物などが販売され、大勢の買い物客が新鮮な産品を買い求めていました。また、しじみ貝のすくい取りや牛蒡麵の振舞イベントも人気を集めていました。朝市は10月まで月1回開催されます。



しじみ貝のすくい取りを楽しむ買い物客



佐藤副市長に花束を手渡す園児たち

お仕事ごろうさま

6月の第2日曜日の「花の日」にちなんで木造保育所(千葉敦志所長)の園児11人が6月7日、職場訪問として市役所を訪れ、園児たちが家庭から持ち寄った花で作った花束とかわいい手作りの絵をプレゼントしました。

園児たちは讃美歌「この花のように」を合唱し「いつも私たちのために働いてくださってありがとうございます」と佐藤副市長に花束を手渡しました。佐藤副市長は「すてきな花と歌をありがとう。皆さんも先生の話をよく聞いて仲良くしてください」とお礼を述べ、お菓子をプレゼントしました。

同保育所では警察署、郵便局へも訪問して花を贈りました。



メロンの成長過程を見て

つがるブランド推進会議では市産メロンの成長過程を観察してもらおうと、6月17日、イオンモールつがる柏のつがる出張所前に鉢植え栽培のメロンを設置しました。品種はタカミとレノンの2種類で、5月10日にプランターに定植した鉢植えのメロンを8月の収穫時期まで展示します。

栽培を担当するのは市農村青少年クラブ連絡協議会（4Hクラブ）の大澤貴仁会長、樋口剛さん、樋口成紀さんの3人。大澤会長は「メロンの鉢植え栽培で難しいのは水の管理ですが、今年は2年目なので昨年の経験を生かして育てたい。メロンの成長過程を見て楽しんでもらい、つがる市産のメロンに関心を持ってもらえれば」と話していました。



つがる出張所前に設置された鉢植えのメロン



指揮者体験をする中村奏音さん

迫力いっぱいの生演奏を楽しむ

航空自衛隊北部航空音楽隊による音楽鑑賞会が6月16日、森田小学校で、17日、車力小学校で開催され、児童や父兄らが迫力ある演奏を楽しみました。

車力小学校では牛潟小学校の全校児童も参加。楽器の紹介に続き、歌謡曲やアニメソングなど馴染みのある楽曲が披露され、児童らを魅了しました。また、指揮者体験も行われ、鳴海鈴音さん（牛潟小6年）、白戸俊輔君（車力小5年）、中村奏音さん（同3年）が緊張した面持ちで音楽隊を指揮しました。最後に音楽隊の演奏に合わせて両校の校歌を元気に歌い、花田裕也君（同6年）が「木管楽器が思ったより迫力があって驚いた。知っている曲が多く楽しかった」と感想を述べました。

市連合婦人会が父の日訪問

つがる市連合婦人会（小笠原敬子会長）が、6月13日、父の日を前に、福島市長に花を贈りました。

この日は、小笠原敬子会長、工藤さきあさん、対馬タセさん、長内みつ子さん、尾野洋子さんが市役所を訪れ、小笠原さんが「日頃から私たちのためにご尽力くださって感謝いたします」と盛り花を贈呈。福島市長は「素敵なプレゼントをありがとうございます。市民のお父さん代表としていただき、これを励みにこれからも市民が安心して暮らせるまちづくりに努めて参ります」とお礼を述べました。贈られた花は市役所内に飾られ、華やかな雰囲気を出していました。



福島市長を訪問した市連合婦人会の皆さん



ホタルの幼虫を放流する園児たち

地球村でホタルの幼虫を放流

つがる地球村の池で5月24日、もりた保育園（田中潔園長）の年長児29人がホタルの幼虫150匹を放流しました。

地球村ではホタルの光り飛び交う姿を楽しんでもらおうと、同保育園の協力のもと5年前からホタルの幼虫を放流しています。この日、園児たちは池のほとりでヘイケボタルの幼虫と餌のタニシが入った小さなバケツを手に「元気に育ってね」と声をかけながらそっと放しました。原田雪唯菜ちゃんは「ホタルの幼虫をさわったら柔らかかった。早く大きくなってお尻が光るのを見たい」と楽しみにしていました。地球村の職員によると、順調に成長すれば7月頃にはホタルの成虫の舞う姿を見られるとのことでした。